



今月は、4月より消化器外科主任部長に赴任した高地 耕からのご挨拶と胃癌治療についてのご紹介をさせていただきます。

対象となる患者さまがおられましたら是非ご紹介をお願いいたします。



消化器外科 高田 耕
主任部長

2021年4月1日より、公立学校共済組合近畿中央病院から市立池田病院に赴任してまいりました消化器外科の高地耕と申します。上部消化管（胃・食道）を専門に診療しております。

手術をはじめ化学療法や放射線療法も取り入れて、治療を行っていきたくております。また、地域の先生方とは地域連携パスを積極的に取り入れて診療を行っていきたくて考えております。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

腹腔鏡下胃切除術

2021年7月に日本胃癌学会から胃癌治療ガイドラインの最新版が刊行されました。

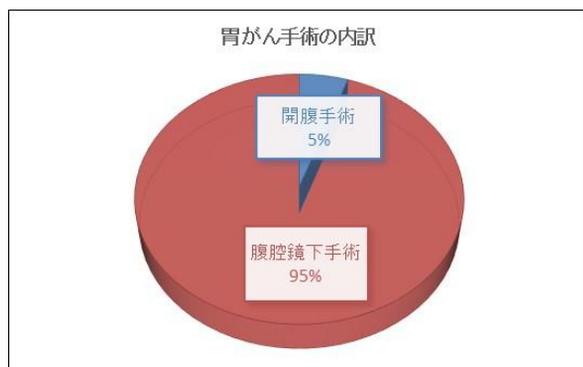
その中でStage I の胃癌に対して幽門側胃切除が強く推奨されています。また、胃全摘術や噴門側胃切除術は弱く推奨されています。

Stage II・IIIでは、現在臨床試験が行われており結果を待っている状況にあります。少なくとも術後生存率に関しては開腹手術に対して非劣性であることを示す報告がされております。

市立池田病院では、以前から積極的に腹腔鏡下手術を取り入れており、Stage II・III に対する腹腔鏡下手術も行っております。引き続き胃癌に対する腹腔鏡下手術を積極的に行ってまいります。

昨年度の手術実績

Stage	開腹手術	腹腔鏡手術	総数
I A		7	7
I B		4	4
II A		4	4
II B		4	4
III A		3	3
III B	1	4	5
III C		6	6
IV	1	4	5
合計	2	36	38



がん地域連携パス

胃切除術後のフォローアップは一般的に行われていますが、フォローアップを行うことで延命効果があるというエビデンスは乏しい状況です。しかし、再発後治療が有効である場合には生存期間の延長が得られる可能性があると言われています。

その中で、Stage I の胃癌は5年生存率が90%近くあり、多くの方が手術のみで治癒されています。

このStage I の方々のフォローアップを地域の先生方と連携して行い、5年経過後は地域の先生方に日常診療や検診をお願いするという『がん地域連携パス』を推進していきたいと考えております。

診療報酬としては、近畿厚生局への施設基準の届出が必要ですが、普段の状態や血液検査結果の報告を当院にさせていただくと、がん治療連携指導料（300点、月1回）や悪性腫瘍特異物質治療管理料（腫瘍マーカー検査、220～400点、月1回）を算定していただくことが出来ます。

スケジュールは下に示すように、当院と地域の医療機関を交互に受診していただく形となります。

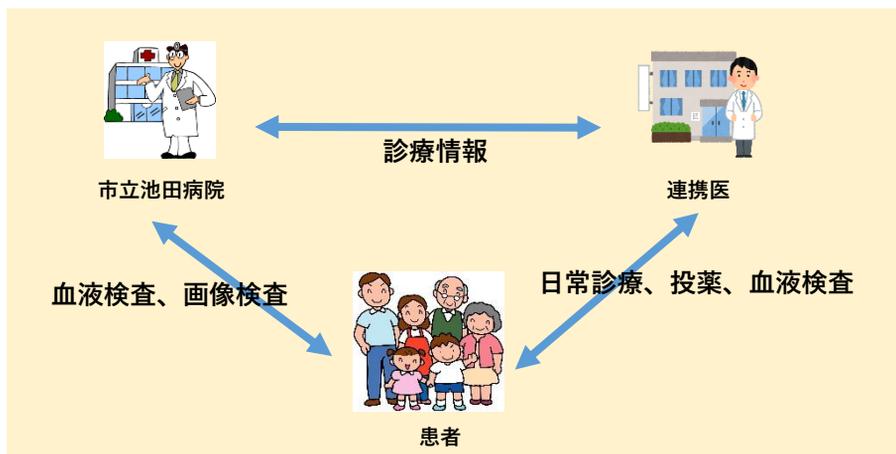
地域連携パスの適応が可能でしたら、ご協力をよろしくお願いいたします。

地域連携パススケジュール表

		退院直後	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	1年	1年3ヶ月	1年6ヶ月	1年9ヶ月	2年	2年6ヶ月	3年	3年6ヶ月	4年	4年6ヶ月	5年	5年以降
当院	問診、診察	●		●		●		●		●		●		●		●	
	血液検査 末梢血、生化学、CEA、CA19-9	●		●		●		●		●		●		●		●	
	CT または US					●		○		●		●		●		●	
	内視鏡					○				○		○		○		○	
連携医	問診、診察		●		●		●		●		●		●		●		●
	血液検査 末梢血、生化学、CEA、CA19-9		●		●		●		●		●		●		●		●
	US							○									○
	内視鏡					○				○		○		○		○	○

●：必要項目 ○：当院または連携医で行えばよい項目

地域連携パスの仕組み



当院は地域医療の拠点病院として、今後も地域医療に貢献していく所存です。何卒宜しくお願いいたします。